

山形県立河北病院及び寒河江市立病院の統合再編・新病院整備に関する協議会

第5回運営委員会

日時 令和7年6月2日（月）15:00～16:00

場所 寒河江市ハートフルセンター2階多目的ホール

1 開会

2 あいさつ

山形県 酒井健康福祉部長

本日は、お忙しい中、「山形県立河北病院及び寒河江市立病院の統合再編・新病院整備に関する協議会」第5回運営委員会に御出席いただきまして、誠にありがとうございます。

昨年度、3月25日に開催された協議会では、新病院整備に向けた「基本構想」が決定されました。今年度は、基本構想を実現していくための具体的な計画に当たる「基本計画」を策定することになります。

基本計画につきましては、昨年度から継続の医療機能部会、合同部会、総務管理部会の3つの部会のほか、新たに設置された2病院の現場職員も交えたワーキンググループにおいて、既に調査検討に着手していただいているところです。

基本計画の検討を着実に進めるためには、前提となる新病院の「建設予定地」や運営母体の「構成自治体」を早期に確定させることが必要です。このため本日は、まず建設予定地の検討を前に進めたく、協議をお願いしたいと考えております。

新病院の立地は、西村山地域の関係者はもとより、県民にとって非常に関心の高い事項であります。協議会としても、客観的な要件のもと、段階的な選定プロセスを経て、分かりやすくお示しをしていくことが必要であると考えております。委員の皆様には、新病院に相応しい候補地の選定に向け、議論くださるようお願い申し上げ、私からの挨拶とさせていただきます。

以上、本日はよろしくお願いいたします。

事務局（県医療政策課 後藤課長補佐）

続きまして、今回初めて御出席いただきます、寒河江市猪倉副市長から御挨拶いただきます。

寒河江市 猪倉副市長

この4月から、寒河江市副市長を拝命いたしました猪倉と申します。

微力ではございますが、市政運営の一助となりますよう努めてまいりますので、よろしくお願いしたいと思います。

また、寒河江・西村山地域の医療提供体制を持続可能なものにするためには、新病院の整備は最重要課題であるというふうに理解しているところでございます。

今後とも地域住民の皆様の期待に応えられるよう努めてまいりますので、皆様方の御指導、御鞭撻をよろしくお願いいたします。

事務局（県医療政策課 後藤課長補佐）

出席者の御紹介は、お手元に配付の名簿に代えさせていただきます。

なお、規約第4条第7項の規定により、本日は河北町、西川町、朝日町、大江町から、副町長等の陪席をいただいております。よろしくお願いいたします。

規約第4条第6項の規定により、運営委員会の議長は委員長があたることとされていますので、運営委員会の進行を酒井健康福祉部長にお願いします。

3 報 告

(1) ワーキンググループの設置等について（資料1）

山形県 酒井健康福祉部長

それでは暫時、議長を務めさせていただきます。

始めに、次第の3「報告」の1つ目、「ワーキンググループの設置等」について、事務局から報告してください。

事務局（県医療政策課 石垣西村山医療体制企画主幹）

事務局長を務めます、県医療政策課の石垣でございます。よろしくお願い申し上げます。

資料1をご覧ください。3月25日開催の協議会におきまして、基本計画の年度内策定に向けて、本協議会の運営体制の一部変更についてご了承いただいたところでございます。

これに基づき、協議会規約の改正などを行いましたので、資料1でご報告させていただきます。主要な点のみご説明させていただきます。3ページの右側をご覧ください。規約第5条第6項の規定に基づきまして、記載の方々を部会員とする旨、運営委員会委員長が指名したところでございます。

続きまして4ページをご覧ください。今年度は、部会の下に新たに部会ワーキンググループを設置しています。新病院の診療規模・診療機能を入院・外来などの部門ごとの計画に落とし込み、今後の建築設計等の条件を整理するなどのため、両病院の医師・看護師等の医療職、それから県・市の事務職などで構成しています。

具体的な構成員は5、6ページをご覧ください。こちらも規約第5条の2第2項の規定に基づきまして、記載の方々をワーキングメンバーとする旨、委員長が指名したところでございます。

なお、3つの部会は既に本年度各1回協議・検討を進めていまして、また、一部のワーキングにつきましても、随時調査・検討を始めておりますので、併せてご報告いたします。

説明は以上でございます。

山形県 酒井健康福祉部長

部会員並びにワーキンググループ構成員の皆様におかれましては、非常に多岐にわたる内容を議論いただくこととなりますが、現場の意見を十分踏まえつつ、持続可能な新病院となるよう、協議を進めていただくようお願いします。

(2) 新病院建設候補地の評価結果について（資料2）

山形県 酒井健康福祉部長

次に「報告」の2つ目、「新病院建設候補地の評価結果について」、合同部会長の寒河江市立病院 久保田病院事業管理者、引き続いて、事務局から報告してください。

寒河江市立病院 久保田病院事業管理者

合同部会長を務めさせていただいております、寒河江市立病院 病院事務管理者の久保田でございます。よろしくお願いいたします。

今回ご報告する評価項目、評価基準、それぞれの評点は、5月26日に開催した第6回合同部会及びその後の書面協議において、十分に協議・検証を行った上で、当事者である合同部会としてその内容を決定したものでありますことを、まずもってご報告させていただきます。

原案の作成にあたりましては、部会での協議に先立ち、外部のコンサルティング業者から専門的な知見を得ながら、県と市の事務局において、客観的かつ公平な評価となるよう時間をかけて検討してもらいました。

加えまして、評点の精査にあたりましては、現地確認調査も行っていました。

詳しい評価結果の御報告は、資料2に基づき、評価に関する基本的な考え方や評価項目ごとの評価基準及び評点のそれぞれについて、事務局から報告させていただきます。

事務局（県医療政策課 石垣西村山医療体制企画主幹）

資料2「評価結果説明資料」をご覧ください。

まず、1ページ「候補地の位置関係」です。昨年度決定した7箇所の建設候補地の位置をあらためて示したものです。寒河江市内に6箇所、赤い境界線を挟んで北東側の河北町内に1箇所、具体的に申し上げますと、寒河江市内の3つの現中学校用地（①～③）、現2病院敷地（④、⑤）、民有地（⑥、⑦）の7箇所が半径3.5kmの中に納まっているところであります。

3ページ「評価に関する基本的な考え方」をご覧ください。基本構想で掲げた7つの立地条件の視点を踏まえ、客観的な「評価基準」に基づき、評価を行うため、基本的な考え方を整理したものととなります。

（1）「評価の視点」では、立地条件で重視する7つの視点を「評価の視点」に設定をした上で、「評価の視点」には優先順位を付けることとしました。具体的には、基本構想において、抽出エリアの設定と絞込みに用いた視点（「1. 交通アクセス」、「2. 災害動向」）を第一順位に、西村山地域を基本とする診療圏域に関わる視点（「3. 診療エリアの継承」、「4. まちづくり」）を第二順位に、最後、設計や建築の前提条件に関わる視点を第三順位としました。

（2）「評価項目」では、評価の視点ごとに複数の「評価項目」を設け、評点を付与するための客観的な「評価基準」を設定しました。なお、「評価の視点」ごとに評価の重み付けを行う観点から、第一順位には7つの「評価項目」を、第二順位には5つ、第三順位には4つと、より「1. 交通アクセス」や「2. 災害動向」の評価を重視する「評価項目」の構造といたしました。

次に（3）「評価方法」です。土地自体の特性を評価する明確な基準がある場合には「絶対評価」を行い、それ以外は相対的に序列が付く相対評価を行いました。なお、相対評価には建設候補地間の相対的な位置付けを適切に評価する観点から、偏差値を用いました。

次に（4）「評価基準に基づく配点」です。「評価項目」ごとの評点は5点満点の5段階評価で行いました。例外として、立地条件上、著しく不利になると認められる内容がある場合には、減点評価も行っております。また、「評価の視点」の「6. 将来への柔軟性」については、将来の可能性の評価という特性に鑑み、5段階評価に寄らず加点評価としました。

最後に（5）「最終的な評価方法」です。全評価項目の合計点により評価し、合計得点の高いものから優先順位を付けることといたしました。

5 ページ「評価結果一覧」をご覧ください。基本的な考え方に基づき、「評価の視点」に 7 つ、5 つ、4 つの「評価項目」を設定し、それぞれ客観的な評価基準により評価（評点付け）を行った結果の一覧表となります。

合同部会での協議・検討の結果、1 位は 1 3 1 点の「陵東中学校敷地」、2 位は 1 1 5 点の「陵南中学校敷地」、3 位は 1 1 0 点の「寒河江市立病院敷地」、4 位は 1 0 7 点の「県立河北病院敷地」、5 位は 1 0 1 点の「中央工業団地西側区域」、6 位は 9 8 点の「ほなみ団地東側区域」、7 位は 9 0 点の「陵西中学校敷地」となりました。

なお、「評価の視点」ごとの小計点数で見ると、全体 1 位の「陵東中敷地」が「2. 災害動向」、「3. 診療エリアの継承」、「4. まちづくり」、「5. 敷地要件」、[7. 整備費用] の 5 項目でトップ、全体 2 位の「陵南中敷地」が「5. 敷地要件」で同率トップ、全体 3 位の「寒河江市立病院敷地」が「1. 交通アクセス」でトップとなりました。

後程の委員間協議は、この評価結果を基にご議論くださりますようお願いいたします。

「評価項目ごとの評価基準及び評点（個票）」について、ご説明します。9 ページをご覧ください。

まず、資料の見方として、左上から、7 つの「評価の視点」のどれに当たるか、その下、それに設定された「評価項目」、その下に評価に当たっての「考え方」、「評価方法」、「配点」、そして、それぞれの候補地の評点がどこに位置しているのかを示しています。右側の地図には、それぞれの候補地の評価結果が視覚的に、かつ網羅的に把握できるよう整理したものとなっております。

実際にどのような評価結果となったのか、主なものだけピックアップして説明させていただきます。

まず、「視点 1. 交通アクセス」のうち、評価項目①「高速道路インターチェンジからの距離」です。山形市内等への患者さんの救急搬送や、病院に勤務する職員の通勤のし易さを考慮し、各候補地から最寄りのインターチェンジまでの直線距離が近いほど評価が高くなるよう評価を行いました。ここでは 7 つの候補地を相対的に比較する「相対評価」を行っています。その結果、③陵南中学校敷地と④寒河江市立病院敷地が、偏差値 56 以上に該当し、5 点を獲得しております。

なお、以後の評価も同様ですが、相対評価の場合、評価基準に当たる偏差値の幅（例：配点 3 は偏差値 48 以上 52 未満）は同じものを使うようにしております。

11 ページをご覧ください。交通アクセスのうち評価項目③「救急搬送圏内のカバー人口」では、迅速に救急搬送する必要性を考慮し、救急搬送圏内のカバー人口が多いほど評価が高くなるよう評価を行いました。右側の地図をご覧くださいと、赤い線でエリアが表示されています。これは、救急車の平均到着時間が 10 分前後であることに鑑み、車が 10 分で到達できるエリアを囲ったものとなります。このエリアがカバーする人口を用い評価を行いました。

その結果、⑦ほなみ団地東側区域が 5 点、②陵東中学校敷地、③陵南中学校敷地、④寒河江市立病院敷地が 4 点を獲得しております。

このように、1 つ目の「評価の視点」、「交通アクセス」では、患者さんの通院のし易さ、病院に勤務する職員の通勤のし易さ、山形市内の基幹病院や同地域内の町立病院への転院搬送や連携のし易さ、救急搬送のし易さなどで評価を行いました。

16 ページをご覧ください。「視点 2. 災害動向」のうち評価項目①「想定浸水区域」です。大雨などによる災害発生時の診療機能の停止の可能性などを考慮し、浸水被害が少ない程、評

価が高くなるよう評価を行いました。浸水想定区域の一般的な浸水想定深の基準・幅に基づき、敷地の半分程度が 0.5m～3m の浸水想定区域の場合は 2 点、敷地の全体が 0.5m～3m の浸水想定区域の場合は 1 点としました。

その結果、敷地が浸水想定区域上にない②陵東中学校敷地、③陵南中学校敷地、⑤県立河北病院敷地、⑥中央工業団地西側区域が 5 点を獲得しております。

17 ページをご覧ください。災害動向のうち評価項目②「想定最大震度」です。地震被害の抑制を考慮し、想定最大震度が小さい程高い評価となるよう設定しました。

その結果、候補地すべてが想定最大震度 6 強のため、同じ 2 点となりました。

20 ページをご覧ください。災害動向のうち評価項目⑤「活断層」です。活断層については、病院建物に直接、壊滅的なダメージを与える可能性があるかどうか、つまりは、認知されている活断層が敷地直下にあるかどうかで評価しました。

なお、山形盆地断層帯を震源とした地震の揺れによる災害リスクの評価は、先ほど説明した「想定最大震度」などで行っています。

このように、2 つ目の「評価の視点」、「災害動向」では、地震や大雨被害に対する敷地の有利・不利について、地震や浸水に関する各種想定マップや、土地の条件を評価できる基準を用いて評価を行っています。

次に 23 ページをご覧ください。「視点 3. 診療エリアの継承」のうち評価項目①「現 2 病院からの距離」です。両病院を利用する患者さんの通院のし易さを考慮し、両病院までの距離の合算値に近いほど高い評価となるよう評価しました。

その結果、④寒河江市立病院敷地、⑤県立河北病院敷地の現病院敷地に加え、②陵東中学校敷地が 5 点を獲得しました。

25 ページをご覧ください。診療エリアの継承のうち評価項目③「人口重心からの距離」です。新病院が西村山全域から利用されることを考慮し、より多くの住民をカバーする診療エリアとするため、西村山管内 1 市 4 町の人口重心からの距離に近い程評価が高くなるよう評価しました。

その結果、⑥中央工業団地西側区域、④寒河江市立病院敷地が 5 点を獲得しました。

このように、3 つ目の「評価の視点」、「診療エリアの継承」では、現 2 病院からの距離や、人口重心、患者重心、カバー人口などを用いて評価を行ったところであります。

次に 28、29 ページをご覧ください。「視点 4. まちづくり」のうち評価項目①「西村山圏域都市計画区域マスタープラン上の位置づけ」及び②「所在自治体における都市計画マスタープラン上の位置づけ」です。西村山圏域あるいは建設候補地が所在する寒河江市、河北町それぞれの都市計画マスタープランにおいて、人が集まりやすい場所ほど評価が高くなるよう評価しました。

その結果、②陵東中学校敷地、③陵南中学校敷地、④寒河江市立病院敷地などが 4 点を獲得しています。

32 ページをご覧ください。まちづくりのうち⑤「騒音等による住環境への配慮」です。救急車のサイレンなどの騒音が、候補地周辺に住む住民に与える影響に配慮するため、周辺の世帯数が少ない程評価が高くなるよう評価しました。

その結果、⑥中央工業団地西側区域、①陵西中学校敷地、②陵東中学校敷地が 5 点を獲得しました。

このように、4 つ目の「評価の視点」、「まちづくり」では、病院の立地がどれだけまちづく

りに寄与するか、などの視点で評価を行いました。

最後に、残る「評価の視点」、「5. 敷地条件」、「6. 将来への柔軟性」、「7. 整備費用」について、簡単に触れさせていただきます。

33 ページをご覧ください。「視点5. 敷地条件」では「①敷地形状」や、「②. 接道状況」などの「評価項目」を設定しました。建物の配置がし易い土地かどうか、敷地への出入りがし易いかどうか、工事期間中にどの程度周りに影響を与えるか、用地確保は円滑に行えるかなど、土地そのものの条件について評価を行いました。

次に 37 ページをご覧ください。「視点6. 将来への柔軟性」では「①敷地内での建替え可能性」や、「②基幹道路の拡張や延長の予定」などの「評価項目」を設定し、将来の可能性等に対して、それぞれ1点の加點評価を行いました。

41 ページをご覧ください。「視点7. 整備費用」では「①用地取得想定コスト」や、「②インフラ整備」などの「評価項目」を設定しました。整備にかかる費用や国からの交付金の有無などを用いて評価を行いました。

以上、「評価項目ごとの評価基準及び評点（個票）」について、主なところに絞ってご説明させていただきました。それらをまとめた評価結果一覧については、5 ページで確認くださるようお願いいたします。

以上が、5月26日開催の第6回合同部会とその後の書面協議において協議・決定した、新病院建設候補地の評価結果となります。

4 協 議

（1）新病院建設候補地の絞り込みについて

山形県 酒井健康福祉部長

それでは協議に入ります。

まず、建設予定地の選定の進め方について確認します。昨年度末、基本構想に示す選定プロセスの第1段階として、建設候補地7箇所が抽出されました。今年度は、第2段階として、立地条件に照らして一定程度絞り込み、第3段階として、建設予定地1箇所を決定することとなります。

本日の運営委員会では、選定プロセスの第2段階「建設候補地の絞り込み」について御協議いただきます。最終の第3段階の「建設予定地の決定」については、本日の協議結果を踏まえ、今後、協議会を開催し、知事と寒河江市長の協議によって行うこととしたいと思います。

以上の進め方として宜しいでしょうか。

ありがとうございます。それではそのように進めさせていただきます。

それでは、具体的な協議に入ります。

先程の報告の通り、合同部会で予め建設候補地の評価をしていただいております。まず、この評価方法・評価結果について御意見を伺います。発言される方は挙手をお願いします。

山形県 阿彦病院事業管理者

2点、御説明いただきたいと思います。

まず1つは、評価の「視点1. 交通アクセス」という点は非常に重要な視点であり、優先順位が高いというのは理解しているところですが、その後の災害動向との兼ね合いで、災害発生、特に大雨が最近多いため、大雨発生時に道路が浸水して病院へアクセスできないリスク

というものを十分に検討して評価していただきたいと思います。この災害発生を想定した交通アクセスの評価について説明いただきたいと思います。

事務局（県医療政策課 石垣西村山医療体制企画主幹）

資料2の22ページをご覧くださいと思います。

評価の視点の「2. 災害動向」のうち、「⑦災害発生時の迂回路の確保可能性」がご質問の内容に該当する箇所となります。お話しございました通り、近年豪雨災害が頻発しています。洪水発生などの時におきましても、新病院の場所が陸の孤島となってしまうのは、地域で求められる役割を發揮することができないという考えのもと、災害発生時においても新病院へたどり着けるか、病院から他院への転院搬送等のための経路を確保できるかどうかといった視点で、評価項目「迂回路の確保可能性」を設け、評価をしています。具体的な評価方法といたしましては、評価方法の欄の1、2、3という手順を整理していますが、まず、候補地の周辺の接道を考慮した上で本数をカウントし、次に、この接道のうち浸水想定区域にかかるものは除外します。最後に、残った接道で浸水想定区域の外に迂回できる接道が何本あるかによって、評価をしています。

山形県 阿彦病院事業管理者

もう1つ、県立河北病院には北村山地域からの入院患者・外来患者が一定数いるということで、「北村山地域からの利用者にも配慮するように」との要望が出ているかと思いますが、今回の評価視点「3. 診療エリアの継承」においては、そういった要望を十分に考慮した評価基準となっているか、改めて確認させていただきたいと思います。

事務局（県医療政策課 石垣西村山医療体制企画主幹）

資料2の24ページをご覧ください。「視点3. 診療エリアの継承」のうちの「②患者重心からの距離」というところが、質問の趣旨に該当する部分かと思います。

患者重心につきましては、このページの評価方法の欄の2に記載していますけれども、両病院に入院する、北村山在住患者を含んだ村山地域全体の患者を基にした患者重心となっています。県立河北病院の入院患者の一定数が北村山地域在住の方であるということのようなことを考慮したものです。

なお、当該患者重心につきましては、右側の図をご覧くださいますと、河北町寄りの寒河江市入倉地区になりますので、重心に近い陵東中学校敷地と県立河北病院敷地が、この項目において最高点を獲得するというような状況です。

山形県 阿彦病院事業管理者

ありがとうございます。この立地場所の選定では、住民の関心が非常に高いので、客観的な評価を行っていく必要がありますけれども、今回、非常に多くの項目と優先度をつけた評価をしていただいたことは、適切であると思っています。

ただ、一番優先度が高い交通アクセスのところでは、14ページのバス停の項目などは、新しい病院ができればそこにバス停ができるので、この項目は無くしても良いのではないかと思います。この項目の有無により、全体の総得点の結果にはほとんど差は出ないと思います。

事務局（県医療政策課 石垣西村山医療体制企画主幹）

14 ページについては現段階での公共交通機関の利便性から評価しています。バス路線については、立地場所が決まれば、地域公共交通の観点から変更が今後見込まれる可能性もありますが、他の評価項目、例えば、基幹道路の延長予定や接道状況についても、あくまで現時点での状況でもって評価するということで、時点を合わせています。

ご指摘の通り場所が決まれば、そこが公共交通の起点になる可能性があります、あくまで現時点での評価ということで御理解を賜れればと思います。

県立河北病院 佐藤院長

評価の「視点7.整備費用」のうち、陵東中学校敷地は既存施設の解体等で追加費用が発生するとありますが、昨年度の構想の中で、建設候補地を洗い出した理由の一つとして、用地取得費用が掛からないということがあったと思いますが、この点について、今回の評価の考え方を伺います。

事務局（県医療政策課 石垣西村山医療体制企画主幹）

資料2の41ページになります。昨年度の基本構想の検討の中では、ご指摘の通り、公有地の有効活用、また、用地取得費用ゼロあるいは低く抑えられる可能性があるとの点に着目をいたしまして、公有地を中心に建設候補地の洗い出しを行いました。

一方で、新病院の運営母体につきましては、県や市とは別組織に今後なっていきますので、土地を含め財産の譲渡、移管する手続きが必要になります。

現段階で、運営母体への譲渡・移管の方法が決まっていないので、今回の評価にあたりましては、公有地・民有地の区別なく、固定資産税の路線価という同一の基準を用いまして、同じルールの下で想定コストを算出し評価をしています。

寒河江市立病院 久保田病院事業管理者

評価項目につきましては、合同部会で十分検証された内容ではありますが、専門的な内容も多いため、地域住民の皆様により丁寧に分かりやすく説明する必要があると思います。どのように対応していくお考えでしょうか。

事務局（県医療政策課 石垣西村山医療体制企画主幹）

事務局としての現時点の考えを述べさせていただきます。建設候補地の評価項目、それから評価結果につきましては、ご指摘がありました通り、地域の皆様も非常に関心の高い事柄だというふうに認識しております。

本日の協議結果につきましては、今月中にも寒河江市内において住民説明会の開催を予定しています。また、河北町におきましても、説明の機会を頂戴できるよう現在調整をしているところでございます。後ほどの協議の中では、建設候補地の絞り込みも行われるというふうに思いますけれども、その結果だけではなくて、住民の方に対しましては、評価方法であるとか評価項目、評価基準といった内容につきましても、ご理解、ご納得いただけるよう丁寧に説明して参りたいというふうに考えています。

寒河江市 猪倉副市長

評価項目について、評価基準は全て測定可能な指標に基づく評価であり、相対評価の項目に関しましても、偏差値を用いた公平な評価であると思います。また、項目も非常に分かりやすく、正しく評価されていることが分かります。評価方法は適正であると考えます。

また、評価結果についても、上位から順に新病院に求められる機能を十分に汲んでいると考えられ、妥当であると考えます。

村山保健所 藤井所長

評価の「視点4.まちづくり」について質問いたします。

28・29 ページに記載されている建設候補地についてですが、商業、医療、福祉などが集積する商業系用途地域を核とした拠点として、図中では点線の丸で示されています。しかし、候補地がすべてその中に含まれていないという結果になっており、これは結果的にそうなったのだと思います。

ただ、まちづくりという視点から考えると、福祉施設などが集まっているエリアに新病院が立地することは重要だと考えます。なぜなら、こうした施設には患者さんが通うことが想定されるため、利便性の高い立地が求められるからです。

また、29 ページをご覧いただきたいのですが、寒河江市の場合、中心市街地活性化エリアが右側の図で黄色い実線で囲まれた部分として示されています。いわゆる中心市街地に該当するこのエリアには、候補地が一つも含まれていません。同様のことが河北町でも見られます。

このような状況を踏まえ、行政としての都市計画、つまりまちづくりとの整合性という点で、新病院の建設予定地が決まった後、どのように都市計画を進めていくのかについて、お伺いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

事務局（県医療政策課 石垣西村山医療体制企画主幹）

自治体に係ることなので、寒河江市の意見を伺えればと思います。

寒河江市 猪倉副市長

新病院を利用する患者さん、またそのご家族の方々が安心安全に利用しやすい環境となるよう、都市計画には反映したいと考えております。

そのため、仮に建設予定地が寒河江市内となった場合には、周辺道路の整備、土地利用や規制などの面的な位置付け、商業施設の誘導、また西村山地域からのアクセス性なども踏まえて、様々な角度から都市計画に反映していきたいというふうに考えております。

現行の寒河江市都市計画マスタープランが今年度までの計画になっておりますために、来年度、令和8年度から20年間のまちづくりの羅針盤となる次期マスタープランについて、昨年度から2年かけて、まさに今、検討している最中でございます。

新病院の建設予定地に合わせまして、先ほど申し上げました通り、様々な角度から都市計画に反映、活かしてまいりたいと考えております。以上です、よろしくお願いいたします。

村山保健所 藤井所長

周辺の活性化については予定地が決定してからという点もありますので、新病院が立地する自治体に検討して頂ければと思います。

山形県 酒井健康福祉部長

ここでお諮りします。建設候補地の評価方法・評価結果については、資料のとおり決定することとして、皆様宜しいでしょうか。（異議なし）

それでは、建設候補地の評価結果として、

第1位	陵東中学校敷地	131点
第2位	陵南中学校敷地	115点
第3位	寒河江市立病院敷地	110点
第4位	県立河北病院敷地	107点
第5位	中央工業団地西側区域	101点
第6位	ほなみ団地東側区域	98点
第7位	陵西中学校敷地	90点

と決定させていただきます。

次に、評価結果を踏まえ、絞り込みをどの程度行うか御意見を伺います。皆様、ご意見等がありますか。（意見なし）

では事務局から提案をお願いします。

事務局（県医療政策課 石垣西村山医療体制企画主幹）

昨年度策定した基本構想では、段階的な選定プロセスを経て、複数の建設候補地の中から事業計画に合った最適な場所に決定していくという整理をしています。事務局からの提案になりますが、最終的に建設予定地を1箇所決定していくことを考えると、この段階で建設候補地を半数以下まで絞り込むことが妥当ではないかと考えています。

この場合、7箇所からその半数以下の2箇所または3箇所に絞ることとなりますが、複数の選択肢、複数の代替案を残しておくというふうなことも、妥当ではないかと考えております。つまりは、得点上位の3箇所に絞り込んではいかがかと、事務局から提案をさせていただきます。

山形県 酒井健康福祉部長

ただいまの事務局案の通り、上位3箇所まで絞り込むということでよろしいでしょうか。（異議なし）

それでは建設候補地については、陵東中学校敷地、陵南中学校敷地、寒河江市立病院敷地の3箇所に絞り込むことに決定させていただきます。なお、冒頭でご報告いたしました通り、この結果を直ちに協議会、吉村知事と寒河江市長に報告するとともに、今後協議会を開催して、知事と寒河江市長との協議によって立地を決定する運びとなります。

協議は以上となります。

本日は、西村山地域の4町の皆様にご参加いただいておりますので、ただいまの建設候補地の絞り込みについて、ご意見を頂戴したいと思います。

河北町 河内副町長

2点、意見と質問をさせていただきます。1点目は、ただいま絞り込みということで、7箇所から3箇所に絞られたわけですが、点数順ということで、なぜ3箇所、つまり半数以下というふうになったのかという経緯を改めてお伺いしたいと思います。

点数を見ますと、2、3、4位の点数の開きは僅差。点数だけを見れば、半数以下の2つだけに絞ることも可能だったと思います。できれば4番目まで、というようなことで絞り込みがあればよかったのかなと、河北町としては感想を持っております。

それから、教えていただきたいのですが、評価に関する基本的な考え方です。配点ですが、各評価項目の評点を5点から1点までの5段階としておられますが、重要視するところは評価項目に差を設けているという説明がありましたが、画一的に1点から5点というようなやり方になっている理由というのは、もしお聞かせ願えればと思います。

事務局（県医療政策課 石垣西村山医療体制企画主幹）

まず1つ目の3つへの絞り込みの点でございますが、先ほどの委員とのやり取りの結果として、上位3箇所に、新病院の協議会組織として決定がなされたとの経緯でございますので、まずはご意見として受け賜らせていただきたいと思います。

理由付けにつきましては、繰り返しとなりますが、本日は今後建設予定地を1箇所に決定していく、前段階という位置付けでございますので、最低限半分以下までは絞り込むということが妥当ではないかなというふうに考えてございます。

その中で、2、3、4位の点数差は僅差ではないかとの指摘がございました。ただ、段階的な選定プロセスの中にあっては、どこかで線引きをしなければならないという点につきましては、ご理解を賜ればというふうに考えてございます。

もう1点、評価の重み付けの部分になります。これも繰り返しの説明になってしまって恐縮ですが、評価項目、今回36個設定しておりますけれども、なかなかその評価項目1つ1つを見て重み付けすると、ある意味恣意的にもなりうる部分がありますので、今回は、その評価項目が設定された大元の評価の視点、これに改めて着目をして、評価の重み付けを行うこととしています。

従って、特に今回も重視するというふうなことで、「1. 交通アクセス」、「2. 災害動向」、これらの評価項目を7つまで増やすことによって重み付けを行うという手法をとりました。

山形県 酒井健康福祉部長

では、他に御意見ございますでしょうか。（意見なし）

新病院の立地は、西村山地域の住民にとって関心の高い事項となっておりますので、引き続き今後の協議についてもよろしくお願いしたいと思います。

特にこの西村山地域については、人口減少も著しい地域ですので、将来を踏まえた議論を今後ともよろしくお願いいたします。

では、以上をもちまして協議を終了します。進行を事務局にお返しします。

5 閉会